

介護ニーズ最前線

団塊の世代を知る

阪本 節郎

人生100年時代 未来ビジョン研究所 所長

第3回

高齢女性利用者がミニスカに!?



さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務。研究開発に従事後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルダービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設、現在、所長。著書、『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』（講談社＋α新書）『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか？新しい大人消費が日本を動かす』（日経新聞出版社、韓国版、台湾版）他

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

初めてミニスカートを
はいた女の子たち

いくらなんでも介護施設の高齢女性利用者がミニスカートになる、ということはあり得ないといえるでしょう。しかしながら若かりし頃、団塊女性は日本で初めてミニスカートをはいた勇氣ある女の子たちだったのです。

1966年、前回の東京オリンピックの2年後にビートルズが来日してビートルズ旋風が巻き起こり、その翌年にミニスカートのツイギーが来日しました。ツイギーはモデルで、訳すと小枝ちゃ

んというその名の通り、細い足にミニスカートがよく似合う女の子でした。この頃、現在69〜72歳の真正団塊は高校3年から社会人・大学生2年目、現在67歳以上の広義の団塊は高校1年から上という、まさに青春と真ん中でした。

1970年には『anan（アンアン）』、71年に『non-no（ノンノ）』という女性誌が創刊され、ミニスカートとジーンズは当時の女の子たちのファッションとして当たり前のものになったのです。いまや一般的になっている若者ファッションはこのときに始まったと言っても過言ではありません。

ちなみに、アンアン・ノンノ以前にあったのは主婦誌ないし婦人誌で、女性誌はありませんでした。はじめて若者がファッションや流行を自分たちのものにしたのが当時の団塊女性でした。

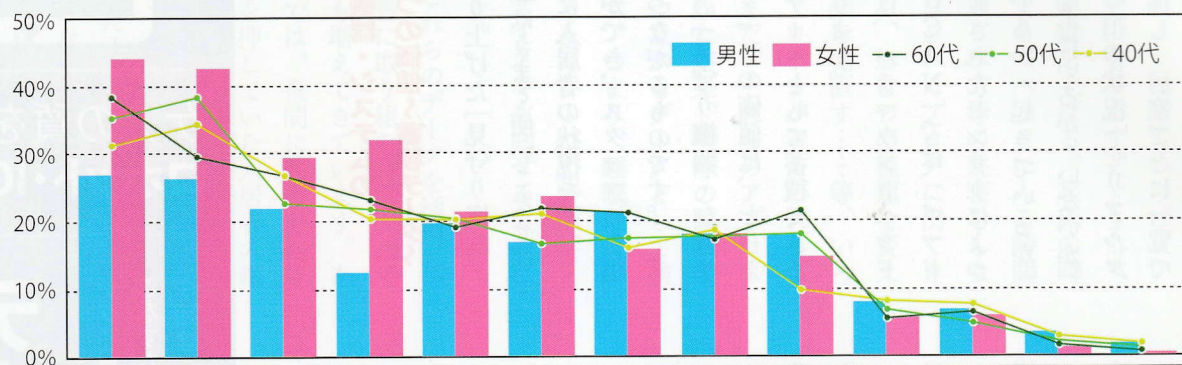
おしゃれやファッションを
卒業しない利用者に

彼女たちが中高年女性になって何が起ったかというと、オバサン向けのものは売れないという現象です。これまでオバサンといえど、地味なもの、色でいえば茶系と決まっていたものが、そうした服がなかなか売れない。では何を

買うようになったかといえば、ユニクロだったりしたわけです。ユニミンもそのCMに出ていましたが、若者から高齢女性までが支持するようになった、その一番上の世代が団塊女性だといえます。

40〜60代を対象にした調査で、「人から呼ばれて嬉しい言葉は何ですか」という質問（図表）に対し、少し前までは中高年といえど「成熟した」というのが常識でしたが、いまや、1位「センスがいい」、2位「若々しい」、3位「自然体」となり、「成熟した」はかなり低くなっています。「センスがいい」の1位は女性が押し上げています。団塊女性は調査した2015

図表 「あなたが、呼ばれて嬉しいと感じる言葉」とは



		n	センスがいい	若々しい	自然体だ	おしゃれな	自分を誇る	調和のとれた	バランス・トビ	尊敬(リスペクト)できる	努力家	カッコいい	自己主張がある	成熟した	頑固な	組織で動く
性	全体	2,413	35.1	34.2	25.4	21.8	20.0	19.9	18.2	17.9	16.4	6.8	6.4	2.0	1.0	
	男性	1,229	26.6	26.2	21.6	12.1	19.3	16.6	20.9	18.0	18.0	7.9	6.8	3.1	1.7	
	女性	1,184	43.9	42.5	29.4	31.9	20.7	23.3	15.3	17.7	14.7	5.6	6.0	0.9	0.3	
年代	60代	814	31.3	34.5	26.9	20.5	20.4	21.3	16.0	18.7	9.8	8.0	7.6	2.8	1.5	
	50代	797	35.5	38.5	22.7	22.0	20.3	16.6	17.3	17.4	18.1	6.6	5.1	1.6	1.0	
	40代	802	38.5	29.6	26.7	23.1	19.2	21.8	21.2	17.5	21.3	5.6	6.5	1.6	0.6	

出典：博報堂新しい大人文化研究所調査

年時点では60代後半でしたが、その60代だけを見ても、1位が「若々しい」、2位が「センスがいい」であり、団塊女性が人から呼ばれたいの「若々しくてセンスがいい」ということなのです。この調査は全国調査であり、かつ地方都市の意識が反映されるように設計されている調査なので、全国的な傾向だといえます。

これまで介護施設の利用者になる高齢女性は、ほとんどおしゃれを卒業したというのが常識になっていたと思われま。しかしながら団塊女性は、要介護になっても介護施設の利用者になってもおしゃれを完全に卒業するわけではなく、おしゃれやファッションに関心を持ち続けそうです。

若い女性介護職員と ファッション談義が楽しい

もちろん、だからといって利用者の女性がミニスカートになるとは思えないわけですが、一方で、おしゃれやファッションの話は好きだ、という女性利用者は増えてくるでしょう。現在、徐々に70代

半ばから後半のプレ団塊世代が利用者になり始めているとみられます。そのなかにはそういうことに関心を持つ女性も出て来始めているのではないのでしょうか。普段は自制しているが、聞いてみればかなり関心があった、ということもありそうです。

今後、若い介護職員はさとり世代以降になります。さとり世代は無暗に新しいファッションを追うのではなく、古着屋をうまく利用したりする世代です。その意味では、意外と高齢の女性利用者と話が合うこともありそうです。お互い女性同士で違いを知ったり、情報交換したりということが楽しくなる可能性もありそうです。特に、「若い頃はミニスカートだったんですか？」と水を向ければ、「男の子の視線をよけるのが大変だったのよ」とか「デートのときにはいていったわよ」とか恋バナも話してくれそうな気がします。そこから利用者と若い職員の良いコミュニケーションが生まれる可能性もあるでしょう。若い職員にとっても楽しい介護施設にしてい、そういう機会になる可能性があるのです。